

ミヤマアカネ

Sympetrum pedemontanum

トンボ科



ミヤマアカネ

名前の由来

ミヤマは「深山」だが、山に生息しているわけではない(→興味深い話の項参照)。「アカネ」は茜色(茜草の根で染めた赤色)に由来し、成熟すると全身が赤くなることから、いわゆる赤トンボ全般を「アカネ」と呼んでいる。赤トンボという種類は存在しない。漢字名: 深山茜

形態的特徴

体長33~40mm。羽の途中に茶色の帯がある。

類似種と見分け方: 成熟すると赤くなるため、他の赤トン

ボ類が類似種となるが、翅に茶色の帯があるのはこの種だけである。

生息環境・分布

平地から低山地の池沼や小河川。

分布: 朝鮮半島からヨーロッパに分布。国内分布は、九州以北の全国。北海道内では全域だが、東北部では少ない。

十勝地方では、平地から低山地の池沼や小河川に生息。帯広市、音更町、新得町、豊頃町などで観察されている。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫はアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、チゴハサブサなど小型猛禽類やタンチョウなどの鳥類に捕食される。

繁殖生態・寿命

産卵は連結して緩やかな流れのある浅い水面に打水して行われる。成虫は7月上旬から10月下旬に見られる。

寿命: 幼虫期間約1.5~3ヶ月、成虫期間1~2ヶ月。

興味深い話

■他のアカトンボ類は池沼に生息しているが、ミヤマアカネは池沼よりも河川沿いの堤防でよく見られるアカトンボの一種である。翅に帯があるのはこの種だけであり、すぐに区別できる。飛ぶときに翅の褐色帯が輪のように見えるところからクルマトンボやオクルマと呼ぶ地方がある。

前であるが、必ずしも深山と関連しているとは限らない。ミヤマアカネの場合も同様で、生態や形態とは関係のない名前である。

■「深山(みやま)」とは日本の動植物によくつけられる名

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するときに水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」枝重夫 講談社 1982
「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」井上清・谷幸三 トンボ出版 1999
「カラー日本のトンボ」石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「近畿のトンボ」近畿のトンボ編集委員会 関西トンボ談話会 1984
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類